

三十三間山の風力発電の計画への懸念事項

① 自然災害が増えている昨今、災害を誘発する危険性が高いです。

日本各地に「山の尾根は触るな」という昔からの言い伝えがありますが、これは自然災害を防ぐための先人の知恵だと思います。尾根の木を大量に伐採すれば、山の保水力が大きく損なわれ、湧き水や井戸水が涸れ、激増している豪雨による土砂崩れを招く危険性が高くなります。



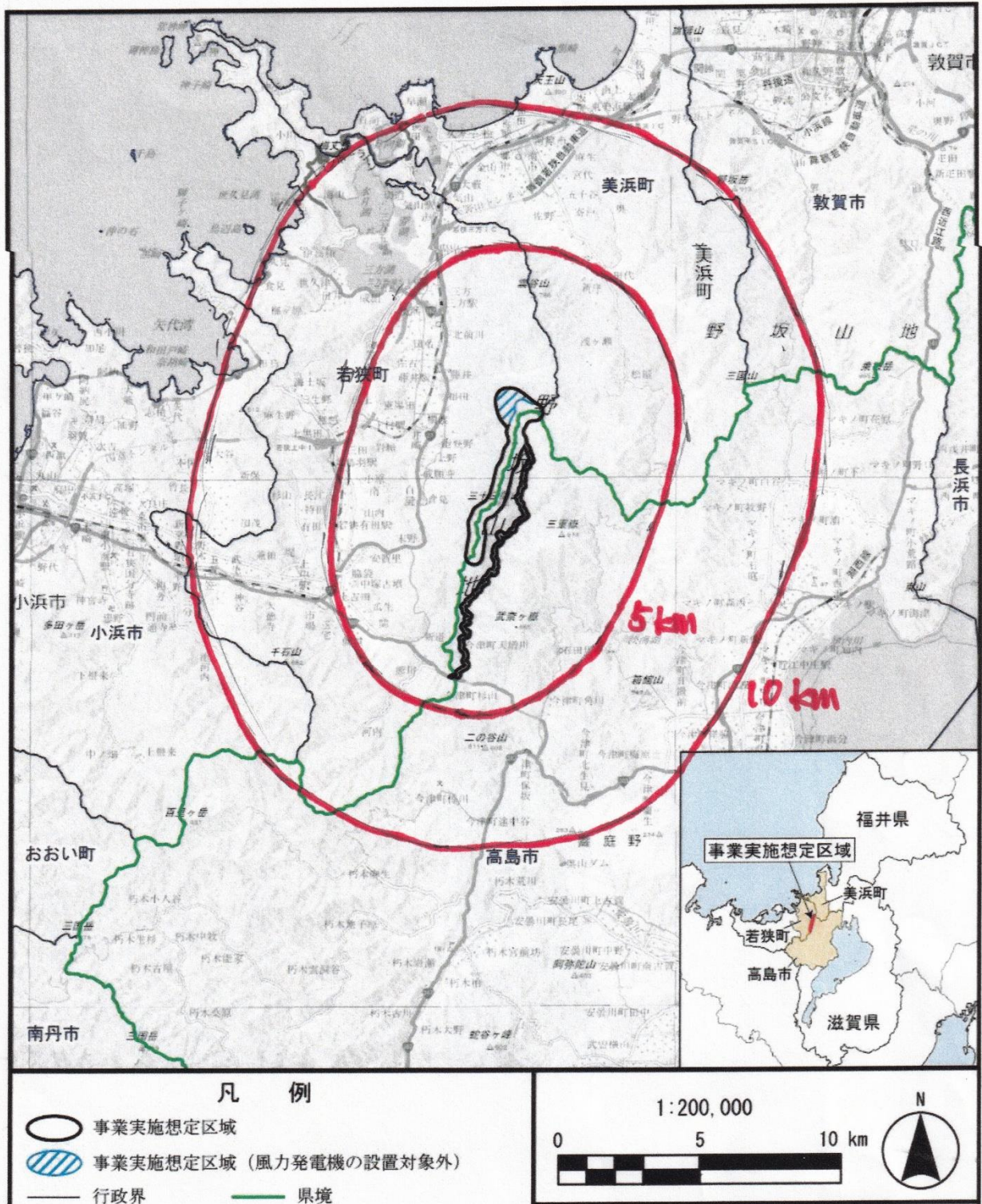
豪雨による山崩れ(熊本県)(この場所に風車はありません。)

② 低周波音によって周辺住民への健康被害が懸念されます。

風車のできた各地で深刻な低周波の被害が発生しています。三十三間山の場合は風車と人家との距離が非常に近く、風車が 6,100kW という陸上では前例のない巨大なものであることから被害が発生する範囲も広いことが予想されます。

(イラストは「風の庭」からお借りしました。)(別紙添付:由利本荘市の新聞記事)





三十三間山の風力発電の事業実施想定区域に基づいた 5km、10 km 圏を示します。
 風車が 6,100kW という超大型のため懸念されるエリアはさらに広い可能性もあります。
 また、野坂山地には「美浜・新庄ウインドファーム」の計画もあるため、双方の風力発電の影響が及ぶことが懸念される地域も広いです。

③ 風車は強風に弱く台風で倒壊した事例が幾つもあります。

日本では毎年「台風」が列島を横切りますが風車は強風に弱いのです。強風時には自動的に停止する設計だそうですが、電源が損傷すると停止ができず、ブレード(羽)が飛んでしまったり風車そのものが倒壊します。実際、これまで世界はもちろん、日本でも強風による倒壊事故が発生しています。



淡路島



太鼓山(京都府)



岩屋(青森県東通村)



宮古島

④ 風車は落雷にも弱く火災になると消火する方法がありません。

風車を建設する業者自身が、一番怖いのは落雷だと明言されていますが、日本で落雷件数の1位は石川県、2位が福井県です。とくに冬の落雷のエネルギーは巨大で、火災になる危険性があります。避雷針では避けられず、地上 150mでは消火方法もありません。



仁賀保(秋田県)



国見岳(福井県)

⑤ 地震への備えも無いに等しいようです。

日本は世界でも有数の地震多発国です。地震が起これば風車だけでなく送電線や変電所にも被害が及び、地盤沈下や液状化で損壊する可能性もあります。実際、熊本地震では南阿蘇の風車が損壊し3基とも撤去されました。国土の7割が山間部の日本で風車を作ろうとすると山か海しかないわけですが、そういった点でも国土に合った発電方法とは言えないと思います。



熊本地震で損壊し撤去された久木野風力発電(熊本県)

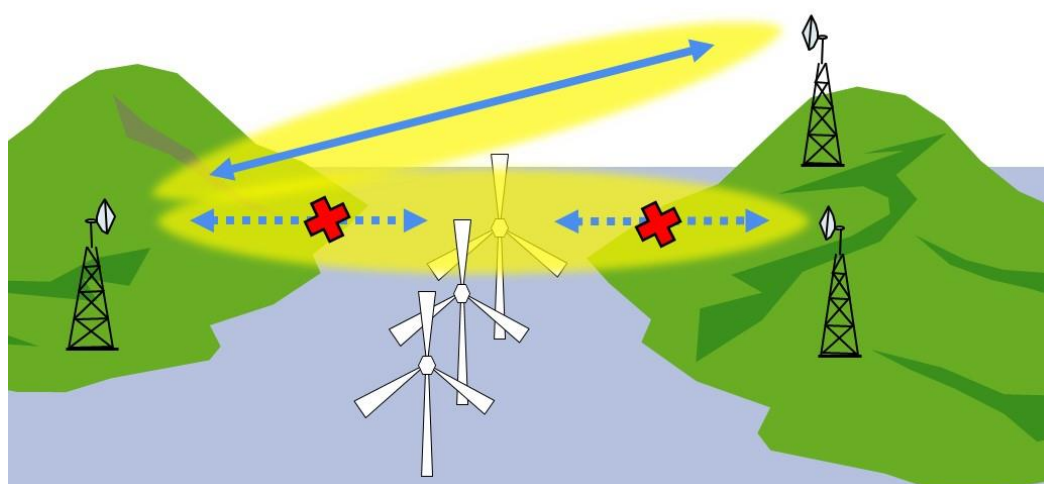
⑥ 気象庁や自衛隊のレーダーに重大な影響を及ぼします。

航空機やミサイルからの微弱な反射波が風車からの反射波に埋もれてしまい、目標の探知や追尾に支障を生じるおそれがあります。また気象レーダーが風車の反射波を強い雨雲と誤って観測すると、航空機の安全な運航等に不可欠な気象状況を適切に把握することができなくなるおそれがあります。(以上の記述及び下図は防衛省自衛隊のHPより)

無線通信への影響(イメージ)

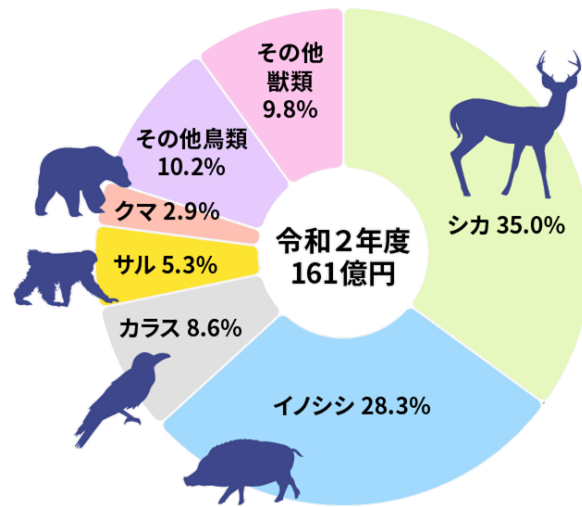
防衛省・自衛隊において使用しているマイクロ波による無線通信については、電波の通り道(伝搬路)を遮られることで影響が生じる可能性があります。

● 伝搬路



⑦ 野生動物の農業・林業被害を助長することになる懸念があります。

年々、野生動物による農作物への被害が深刻化しています。被害を防ぐ工夫と対策が必要ですが、人間が動物たちの住処を奪うことで悪循環を助長する可能性が高くなります。



野生鳥獣による農作物被害(令和2年度)

⑧ バードストライクで多くの鳥が犠牲になっています。



猛禽類医学研究所 齊藤慶輔・2017/11/14 ...
山積みされた大きな袋。これらは全部、風力発電用の風車に衝突して死んだオジロワシだ。温室効果ガスを出さない発電方法として、エコの代名詞的に取り上げられることもある風力発電。その裏で絶滅の危機に瀕した猛禽類が次々と死んでいる現実を直視しなければ、野生動物との共生は永遠に実現しない。

高さが200メートル級の風車の場合、羽の先の時速は200キロにもなります。日本でもイヌワシやクマタカといった超がつく希少種の猛禽類をはじめ多数の被害が報告されています。



猛禽類医学研究所 齊藤慶輔・2018/01/28 ...

【閲覧注意】

袈裟懸けに一刀両断されたオジロワシ。風力発電用の風車に衝突したのだ。事故が発生したのは、バードランドフェスティバルが開催されている根室市。オオワシやオジロワシの一大越冬地だ。事故を軽減するには立地の選定が極めて重要。少なくとも希少なワシの重要な生息地は避けるべきだ。



猛禽類医学研究所

⑨ 風車で雇用は生まれず人口は増えません。反対に過疎化を助長してしまいます。

業者は「現地での雇用を生む、過疎化対策になる。」という説明をしますが事実ではありません。建設時(撤去時)に土木の下請けはあると思いますが、平常時のメンテナンスは専門技術が必要です。ある業者は質問に対し「草引きで1人雇用」と答えました。むしろ低周波音の被害が発生すると移住希望者も無くなり過疎化に拍車がかかります。

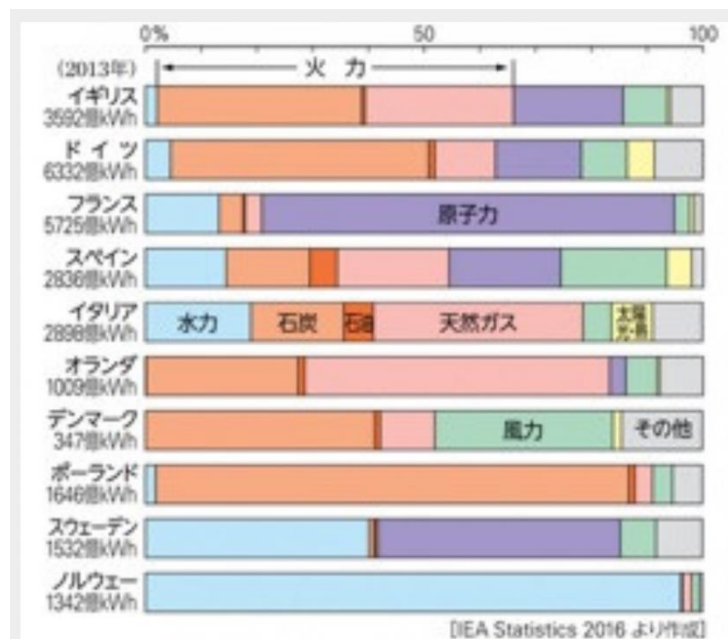
⑩ 風車のブレードはリサイクルできず環境にやさしくありません。

風車の羽はリサイクルできません。埋め立て処分するしかない、というモノで、たった20年しか使えないものを作る、というのはSDGsの趣旨ともかけ離れています。(写真はアメリカ)



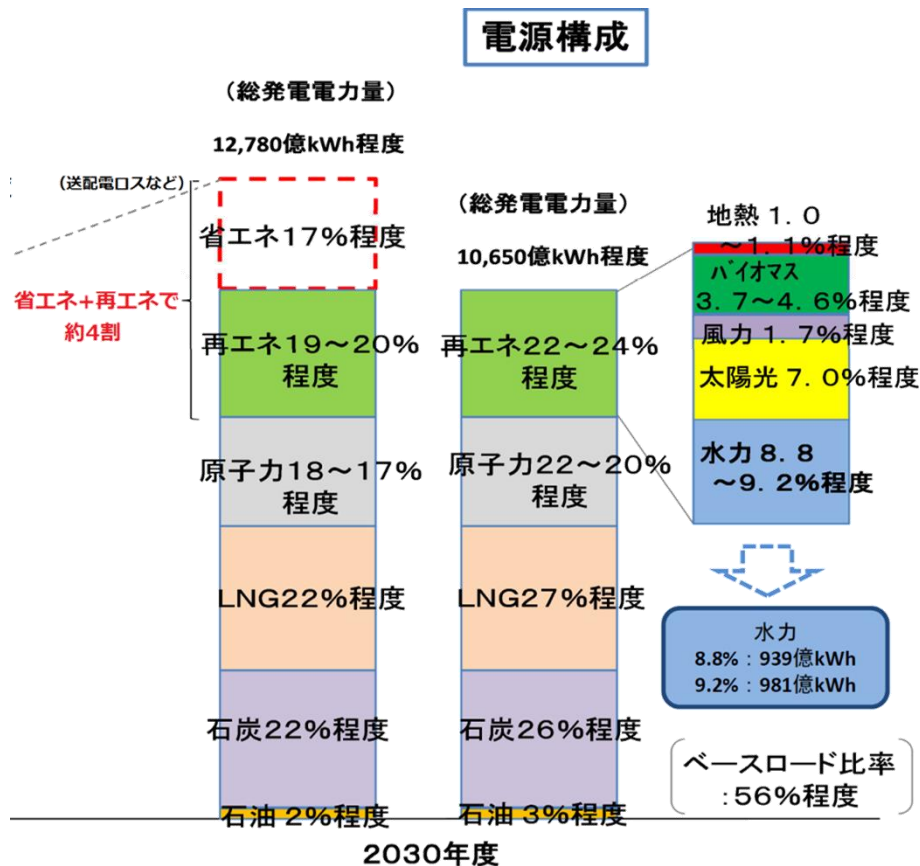
⑪ ドイツの事例を踏襲するのは無理です。

日本ではドイツでの取り組みを参考にしてきたようですが、ドイツは平地が多く、年中、安定した偏西風が吹く土地柄です。またヨーロッパでは多くの国が地続きの上、周波数も同じですので、それぞれの国が選んだ発電方法で作った電気を融通し合うことで安定供給を実現しています。島国のうえに東西で周波数も違う日本とは条件が違います。



⑫ 本当に原発頼み、火力頼みから抜け出すために必要、といえるのでしょうか？

もともと日本では原発と火力が主電源でしたが東北の震災で原発を停止し、その後は火力頼みの状態になりました。しかし火力は CO₂を発生させ温暖化の元凶とみなされていることで廃止の機運が高まりました。一方で太陽光と風力の増設を続けていますが太陽光も風力もお天気任せのため、「必要なときに必要な電気をつくる」(同時同量)が実現できず、結局、ベースロード電源(昼夜を問わず安定的に供給できる電源)として火力(もしくは原発)も減らすこともできない、というジレンマに陥っています。



経済産業省資源エネルギー庁の HP より

⑬ 再エネで希望がもてるのは地熱？小水力？

この項は余談になり、あくまで個人の意見ですが、風力(太陽光も条件によっては)は日本の地理的条件や気候風土に合ったやり方ではないと思います。それならどうしたら良いのでしょうか？ベースロード電源は原子力か火力、もしくはその両方を選ばざるを得ないのが現状です。そして再エネの導入としては適切な場所に設置する太陽光に加え、地熱発電、小水力発電などの導入を推し進めていくべきでは？と考えます。そして人的被害や環境破壊の側面が大きすぎる風力発電の増設は見合わせるべきだと思います。

以上

2022年10月18日作成